

## これからの県立図書館運営の方向性について

- 県立図書館は平成16年度に開館し、来年度には開館20周年を迎えるところですが、基本的な運営方針である「5つの基本的性格」を策定した岡山県立図書館基本構想(答申)(H10)、岡山県立図書館基本計画(H11)から四半世紀が経過しました。
- この間の社会環境は本格的な人口減少・長寿社会や Society5.0 の到来、さらに新型コロナウイルス感染症の影響が人の行動・意識・価値観にまで多方面に波及したポストコロナの時代など、その変化は著しいものとなっています。
- また、ユネスコ公共図書館宣言のおよそ30年ぶりの改訂、読書バリアフリー法制定や著作権法の改正、国立国会図書館デジタルシフトなど、図書館を取り巻く環境も変化し続けています。
- これからの図書館には、①知識(情報)の確保、②知識(情報)の適切な提供、③コミュニティへの貢献、④新しい学習機会の確保などの役割が望まれています。
- 本館が目指すべきサービスは、こうした社会環境の変化に十分対応し切れているものなのかどうか、5年ごとに策定しているサービス目標(終期:令和7年3月)の改定に先駆け、長期的な視点からの検証が必要であると考えています。

つきましては、これからの県立図書館運営の方向性について次の観点などから、自由にご意見やご感想をお願いします。

- ・利用者サービス(直接・間接・レファレンス)
- ・まちづくりの拠点としての図書館
- ・図書館サービスのDX(デジタルアーカイブ、電子書籍など)
- ・市町村立図書館への支援(役割分担、連携協力体制)
- ・資料収集
- ・子どもの読書活動推進、学校図書館への支援